

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」<sup>ほうそうげんこう</sup>放送原稿（11月30日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。<sup>か ごしまけんりつあま</sup>鹿児島県立奄美図書館です。

今朝は，<sup>あまみとしよかん</sup>奄美図書館の新着図書についてご案内します。

まずは，一般書のご案内です。

<sup>いけたにゆうじ</sup>池谷裕二さんの『脳には妙なクセがある』は，脳科学の実験結果やその解釈などをできるだけ身近な話題に引きつけて紹介しています。構成としては，「脳は妙に〇〇」というタイトルが付いた26のエッセイ的文書が並んでいます。例えば「脳は妙に運まかせ」「脳は妙に酒が好き」「脳は妙に不自由に心地がよい」といった感じです。内容としては，なるほどと頷けるものから，自分の生活にも取り入れてみようと思えるものなどがあります。

<sup>お がわよう こ</sup>小川洋子さんの『とにかく散歩いたしましょう』を紹介します。

人気作家の日常。締切を前に白紙の恐怖に怯え，店員とのやりとりに傷つき，ハダカデバネズミに心奪われる。たとえ何があっても，愛犬と散歩すれば前に進める…心温まるエッセー集です。何も邪魔するものがない静かな場所を，散歩しているかのような気持ちになれる本です。

次は，児童書の中から絵本をご案内しましょう。

<sup>はやし きりん</sup>林木林さんの『バナナンばあば』です。バナナ三姉妹のお話です。三人はいつも一つにつながって，仲良く暮らしています。でも，ある日けんかをしてしまい，それぞれ違うところへ旅に出ました。はたして，三人は仲直りできるのでしょうか…？ かわいくて，おちゃめで，でもちょっぴりいじわるなおばあちゃんバナナたちが活躍する，ユーモアたっぷりの絵本です。

ジョン・J・ミューズさんの絵本で<sup>み き たく</sup>三木卓さん訳の『3つのなぞ』は，トルストイの『3つの疑問』に形を借りて，子どもたちのために書かれています。主人公の少年ニコライが，いい人間になるために人生の3つのなぞと出会い，それを解くことで大きく成長していく物語です。少年は，毎日を生きているけど，自分の人生で，「いつが いちばん だいじなときなんだろう？」「だれが いちばん だいじな人なんだろう？」「なにをすることが いちばん だいじなんだろう？」と疑問をもちます。私たちは，どう生きるべきか。

その答えを導くカギとなる3つのなぞ。そして、その答えとは…大人も深く考えさせられる、人生の教訓の絵本です。

最後は郷土に関する本のご案内です。

比嘉加津夫ひがかつおさんの『島尾敏雄を読む』は、奄美ゆかりに縁がある島尾敏雄の代表作『死の棘』と『死の棘日記』について検証しています。『死の棘』は、島尾敏雄の私小説です。「日本文学の中でもすぐれて水準の高い小説である。読みようによっては難解で息苦しい面もあるが、ユーモアがあって1950年代を生きる家族のかたちが、あるいは一步踏み外すと危機に落ち込む複層化した家族のすがたが、ありありとえがかれている。としたうえで、あとがきでは、おおかたの読者、批評家は書かれているとおりに読み、そのとおりに理解していったのであるが、そうは思えなかったし、そうは読めなかったのである。島尾敏雄と妻のミホはここで大芝居をうっていると思ったほどだ。主人公を脅迫しているのは、つまり脅迫文の作者は愛人ではない、愛人であろうはずがない、この小説は小説として大成功しているのはそこを中核にしているからだとおもい、内心『死の棘』に喝采をおくった。」と、比嘉さんは書いています。

すべての読者に『死の棘』の読み直しを提案する渾身の島尾敏雄論となっています。

今月12日は「島尾忌」でした。また、当館の島尾敏雄記念室には直筆の原稿も展示しており、多数の関連図書を所蔵しております。ぜひ、この機会にご覧になってください。

ただいま、特別整理期間中で12月6日までは休館になっています。皆様には、ご迷惑をおかけしておりますが、12月7日からは通常どおり利用できますので、どうぞ、お立ち寄りください。

かごしまけんりつあまみとしよかん  
鹿児島県立奄美図書館でした。